

おわりに

事業総括

21年前に知立市文化会館の開館と時を同じくして野外彫刻プロムナード展は始まりました。その間、駅前イルミネーションや空き店舗活用美術出前講座、ガラスアート博覧会や5年毎の節目には記念美術展や講演会などで愛知教育大学の学生たちと知立市のまちづくりに関わってきました。

今回、20周年記念事業をするにあたり一番の心配事は、日本をはじめ刻々と世界中の国々が新型コロナウイルスの感染拡大により日常生活が変化していくことでした。

厳しい状況下の中で、展示会の企画ではどのくらいの作家の方々が参加していただけるのか、フォトコンテストの公募では市民の反応はどうか、小中学校での出前講座は理解していただけるのか、ワークショップやセレモニーやトークイベントは実施できるのか等々、まったく予測ができず正直緊急事態宣言が繰り返されるたびに事業中止の言葉が出そうになりました。そんな中でも実行委員の方々はりもつとソーシャルディスタンス対策をしながら前向きに取り組む準備を進めてきました。

この20周年記念の事業が完遂出来た事は幸運以外にないと思われるほどでしたがすべての事業が無事出来たことは、スタッフをはじめ多大な協力をいただいた関係諸氏のお蔭と深く感謝申し上げます。多くの人の力を結集しなくては成しえないことばかりで、それぞれの技量と人間性を信頼し力を合わせればどんなことでも出来ると改めてこの事業の成果を認識しました。

野外彫刻プロムナード展振興運営委員会 顧問 宇納 一公
(愛知教育大学名誉教授)

都市整備部と野外彫刻プロムナード事業のこれから

本市では、市民が日常的にまちの中で芸術文化にふれあい、目にすることのできる街並みを創出することをめざして、彫刻のある風景づくりを進めています。

平成12年から続く野外彫刻プロムナード展も多くの方々に支えられながら20周年を迎え、野外彫刻プロムナード20周年記念事業は、「彫刻と“もっとふれあう”出会いづくり」のテーマのもと、多くの方々に芸術をより身近に感じてもらうことができました。20周年記念事業でご協力いただきました全ての皆さまに心より感謝申し上げます。

暮らしの中にある身近な芸術は、心の豊かさをもたらす“彩り”となると考えています。野外彫刻プロムナード展はそんな“彩り”をまちづくりにとりいれる画期的な事業です。平成12年から続くこの事業を継続して行っていくべく、今後とも市民や民間、県内芸術系大学の皆さまとの協働のもと励んでまいります。また、現在、知立駅周辺では、連続立体交差事業を中心とする新たなまちづくりが進められており、知立の玄関口として、魅力ある顔づくりが求められています。今後も芸術文化にふれあうことができる、知立の特色ある風景づくりを図っていく所存です。関係の皆さまはじめ、引き続き、お力添え頂けますよう、よろしく願い申し上げます。

知立市 都市整備部長 高木 清充



中学校で出前授業の打ち合わせ

2020.6.17



彫刻清掃の記念品作成

2020.9.1



セレモニーでのあいさつ

2021.2.11



プロムナード展のあゆみの展示準備

2021.1.26



フォトコンテストの展示準備

2021.2.2

野外彫刻プロムナード事業の20年を振り返って

野外彫刻プロムナード展20周年おめでとうございます。私のような、芸術とは縁もゆかりもない生活をしてきた者が、2005年頃から、長く、この取り組みに関わりを持たせていただくことができたことについては、関係各位への感謝の思いでいっぱいです。

私にとっては、芸術とは空気のようなものと感じています。彫刻について、何故とか何とかが聞かれても、一切答えられません。でも、例えばカラオケやBGMで音楽が愛されているのと同様に、何気ない日常や忘れたい思い出の中に、もし、普通に彫刻があったとしたら、とても素晴らしいことだと思っています。

野外彫刻プロムナード展をとおして、一人でも多くの市民の皆様にも、空気(野外彫刻)がなくてはならないものだったことを感じていただけたら幸いと、今後もどういう形であれ、関わっていきたくと思っています。

野外彫刻プロムナード展振興運営委員会 監事 伊藤 嘉邦

20周年記念展を振り返って

野外彫刻プロムナード展に関わらせていただくようになって、15年が経ちました。これまで、野外彫刻プロムナード展出品者、知立市都市計画課の方々、パティオや地域の方々など、様々な方と出会ってきました。今回の20周年記念事業では実行委員の一人として参加することになり、貴重な機会となりました。記念展開催にあたって、宇納先生や出品者の方々、都市計画課のみなさんのおかげで無事乗り切ることができました。

今回の展示会は、「20th PHASE 芸術は出会いからはじまる」をタイトルとしましたが、私にとって、プロムナード展は「出会い」なんだと気づきました。大学生の頃に先生や先輩方、後輩たちに出会い、それが年月を経てこの記念展につながっていたのだと実感しました。「出会い」とはある一点のことではなく、出会ってから現在まで、そして未来につながっている線だと思えます。ある人とある人が出会って線ができ、またそれが様々な人との線になって、次の「出会い」に広がっていくのではないのでしょうか。野外彫刻プロムナード展が、今後も新たな出会いのきっかけの場になっていくことを願っています。

野外彫刻プロムナード20周年記念事業実行委員会 梅本 洋子

今後の行政との連携についての希望、意気込み

今回の20周年記念展が行われた令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により激動の年となりました。本事業の開催も危ぶまれましたが、行政主導のもと、市民とアーティストが関わりながらの活動が企画、実施されてきました。そのため、過去の記念展以上に市民や行政と街に点在する彫刻や作家との関係に相互作用を及ぼす機会となり、「野外彫刻プロムナード展」がより皆様の身近なものになったのではないかと感じております。

社会情勢、時代の変化により大きな規模で人々の生活様式、価値観は変わっていきます。プロムナード展が20周年を迎えるまでも大きな社会の変化がいくつもありました。また、知立市においては駅前の再開発などにより街のかたちが大きく変わろうとしています。そのような中で求められる芸術も変化していくものだと私は思います。彫刻だけでなく、複合的な芸術が知立市と交わることで、新たな文化を形成していき、他の市町村とは違う魅力的な街づくりがこれからも行われていくことを期待します。そこに1人のアーティストとして尽力できたら幸いです。

野外彫刻プロムナード20周年記念事業実行委員会 山本 辰典

野外彫刻プロムナード事業に携わって学んだこと、今後活かしていきたいこと

私は、入庁から4年間、野外彫刻プロムナード事業に携わらせていただきました。事業を通して感じたことは、たくさんの出会いや学びがあったということです。それは、彫刻という作品だけでなく、作家さんや事業にご支援いただく皆様との出会いもあり、この事業は多くの人に支えられ、20年という時を越えて続いているのだと実感いたしました。

芸術に関心を寄せるきっかけは、記念展のタイトル「芸術は出会いからはじまる」に尽きると考えています。市内における彫刻作品との出会いの場は、野外彫刻プロムナード展だけでなく、公園や遊歩道等に点在しており、知立市の魅力あるまちなみのひとつとなっています。より多くの方に芸術を身近に感じていただき、関心を寄せていただけると嬉しいです。

これまでの貴重な経験をもとに、知立市の魅力を改めて認識し、活かしていくという気持ちを持って、次世代にも繋がるようなまちづくりに努めていきたいと思っています。

知立市 都市計画課都市企画係 主事(R2) 藤本 佳織

記念展準備の様子



記念展搬入時のあいさつ 2021.2.7



飾り付けの様子 2021.2.7



屋外作品の設置 2021.2.7



ワークショップ受付の様子 2021.2.13



セレモニーの打ち合わせ 2021.2.11



出品者の自己紹介 2021.2.14

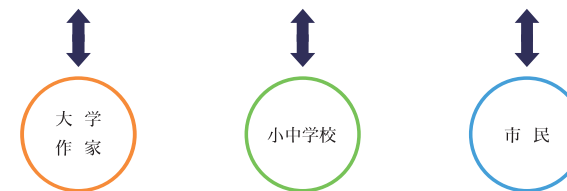
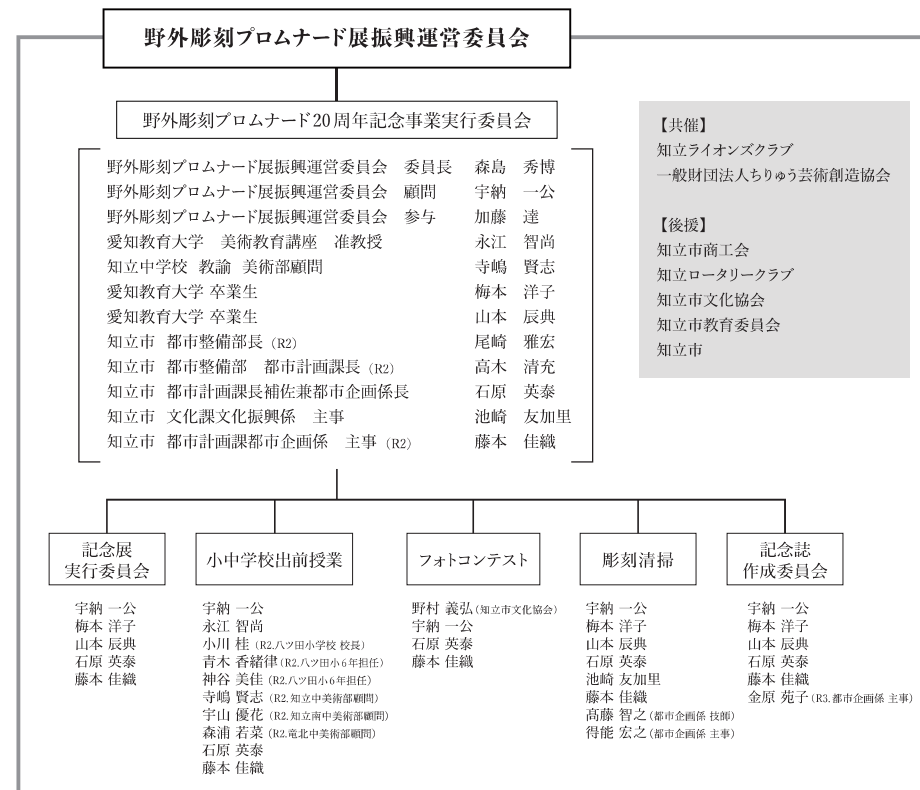


搬出・片付けの様子 2021.2.14



都市計画課職員一同の紹介 2021.2.14

野外彫刻プロムナード20周年記念事業実行委員会・組織図



記念事業実行委員会の打ち合わせ 2020.7.14



振興運営委員会の打ち合わせ 2020.10.28



記念誌の編集会議 2021.3.19